

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第14号 H30.11月発行

教職大学院特別講座「東京学芸大学教職大学院 対話型模擬授業検討会に学ぶ」を開催しました!

11月15日（木）に、東京学芸大学教職大学院から、渡辺貴裕先生と6名の学卒院生の皆さんをお招きして、三重大学教職大学院特別講座「若手教員育成と校内研修の充実をめぐるー東京学芸大学教職大学院『対話型模擬授業検討会』に学ぶ」を開催しました。今回の特別講座について、本学教職大学院の教員と院生の感想を紹介します。

【教員の感想：園部友里恵】

私が東京学芸大学教職大学院で実践されている「対話型模擬授業検討会」に出会って、2年近くが経つと思います。先日の特別講座に参加したこともふまえ、いま、「対話型模擬授業検討会」のおもしろいなと思っているところを書いてみようと思います。

①「感情」のやりとりができる

授業者も学習者も、「感情」（しかもタテマエや嘘ではないもの）を出し合えるというのは本当にすてきなことだなと思います。フォーマルな場、あらたまった場であればあるほど、「感情」のやりとりは薄れていくように思いますし、「授業」を検討する場というのも少なからずそうだと思うのですが、「対話型模擬授業検討会」では「感情」を出すことが許されているため、発言するときに「理性的な発言」（「有意義なポイントを指摘してやろう」と頭をフル回転させること）をしなくてもいい「気楽さ」があり、また、授業者が知りたいポイントの1つである「学習者はどう感じたのか」というフィードバックがかえってくるというのはかなりいいところだなと思っています。

②やりながら「フラットな関係」ができていく

ではそもそも参加メンバー間に「言い合える関係」がなければ「対話型模擬授業検討会」はできないのか、と言われれば必ずしもそうでないところもおもしろいところだなと思っています。むしろ、「対話型模擬授業検討会」をやりながら、「言い合える関係」が次第にできていく感じがあります。（現場経験に差のある、学部新卒学生と現職教員学生がまざってやっても「フラットな関係」になっていくのか、というところも今後探究したい点です）

③自分（たち）で気づかないと学べない（?）

教職大学院で行われる「対話型模擬授業検討会」はその進行の中心が院生であるというのももちろんそうなのですが、「対話型模擬授業検討会」から何を学びとるかということ自体も、院生（たち）自身に任されているという感じがあります。逆に、「指導されること」に慣れている院生にとっては、モヤモヤが残る、歯がゆい場かもしれません。（これは私自身もそうなのですが、誰かに「指導」されて、その「指導」通りにやってみて、もしそれが「失敗」したとしたら、それを「指導者」のせいにしてしまうことがあります。）「対話型模擬授業検討会」は、自分が「選択」し、その「選択」の結果の責任を自分でとる練習なのかな、と思ったりすることもあります。

④現実の世界と架空の世界を行き来する

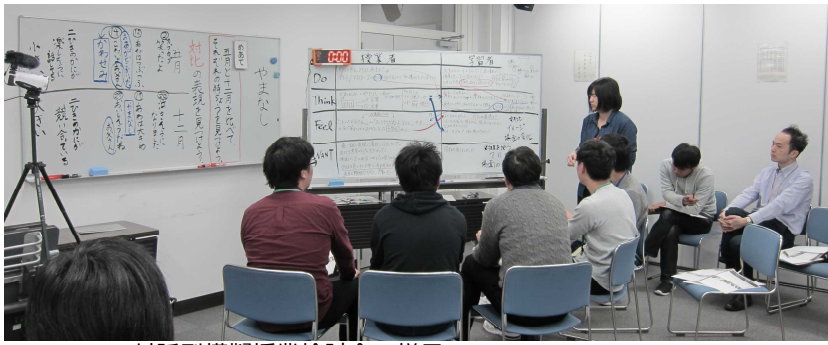
例えば、「小4の国語の授業をやります」と模擬授業者が言うと、学習者役が、どこかウソクサイ「小4」を演じようとしてしまうといったことがしばしば起こります。（そして、その後の検討会では、「本当の小4はこんな風には反応しない」「本当の小4にこの内容は難し



渡辺先生による解説



模擬授業の様子



対話型模擬授業検討会の様子

味では、「対話型模擬授業検討会」で起こっていることは、そのまま現場の授業で実践できる「シミュレーション」ではないし、「架空の世界」の出来事なのかもしれません。でも、そうした「架空の世界」に、「自分」として存在していることで、どこか「現実」味を帯びているような気もするのです。実際検討会での対話も、上記のような「本当の小4は・・・」という「架空の世界」の話ではなく、模擬授業で自分に起こった「現実」を語っていく場になっています。

後期の授業「地域の教育課題解決演習Ⅱ」の教育実践力開発コースのグループでは、「対話型模擬授業検討会」を継続的に実践していきます。学芸大の皆さんから学んだことを活かしながら、三重大ならではのやり方を探究していければと考えています。渡辺先生、学芸大院生の皆さん、本当にありがとうございました。

	授業者	学習者
Do	母とくん対話あるよ！ -対話/対比-2つを比べることでその違いはより明確	先生のヒントをもらって(対)に着眼点 構造的に読むと読みの目的 5月と12月の同時進行の読み比べ 対比見出し
Think	かわせみやゆりしは短気 →X言葉 →O文章 5月(暗)こね 12月(明)お	前後は対比のために 読者の笑顔を→さきおかしな 読者の笑顔を→さきおかしな 読者の笑顔を→さきおかしな
Feel	「おはあさん」→「おはあさん」 かわせみは→さきおかしな かわせみは→さきおかしな	よく分かった。対比の基準は？ 対比の手順は？ 対比の手順は？
WANT	各一話の表現に着目してはじめて、 出くす意見のなげたり 場面が2つある→1つ見分ける 場面が見分けにくい中より見分けたい 先生の期待が大きい、授業イメージにしたい	対比を使い ?!!? 場面のイメージ

「対話型模擬授業検討会」の特色である「9つの問い」を活用した振り返りの可視化

院生の感想紹介

私は、この模擬授業検討会で授業者を務めました。二度の検討会に共通して最も印象に残ったことは、授業者と学習者の認識や意図のズレが浮かび上がってきた点です。その一つは、必ずしも核心を突くものでなくとも、テンポの良い発言を積み重ねていく中で、生み出されていく様子が見ていてワクワクしました。このスタイルの検討会であれば授業者も背負いすぎることなく、学習者と同等の関係で実施することができると思いました。東京学芸大学の皆様、ありがとうございました。 教育実践力開発コース・松葉 光平

思い思いに自分が感じたこと、疑問に思ったことを発言することで、授業者と生徒との思いのすれ違いに気づくことができるのが良いと思いました。また、初めて話す人とでも気軽に話すことができる雰囲気や自分自身の本音をぶつけることができ、より率直な授業への意見が出るとも感じました。このような雰囲気や本音を出すという前提があることで、参観者に授業をしっかりと見なければいけないという責任感を強く持たせることにもなり、授業検討会をより充実したものにできると感じました。しかし、私のようにすぐに疑問を出せない人やじっくり考えたい人にとっては、普段の会話のようにスピーディーな検討会は少し苦手を感じるのではないかと思います。 教育実践力開発コース・大下 竜平

この特別講義を通して、授業者と受講者がフラットな状況で対話することにより、授業者が何を伝えたかったのか、どういう思いで発問したのかがはっきりし、お互いのずれを認識できることが分かりました。また、授業者と受講者どちらにも有益な検討会になるなと感じました。授業者は受講者の立場から感じたことを聞くことができ、そこからよりよい授業づくりのヒントをつかむことができると思います。受講者は模擬授業に参加することによって、子どもたちが授業中に感じることを知り、授業を行う上での配慮事項等に気づくことで、自分自身の授業を振り返ることができます。お互いにとって大変有意義な取組なので、ぜひ教職大学院の同期と今後取り組んでいきたいと思いました。このような素晴らしい機会を頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。 教育実践力開発コース・長谷川 雄也

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

☎ 059-231-9319 (学務担当)

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp> (教職大学院専用 HP)

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp